

第3戦の相手は2部強豪校である桃山学院大学。シーズン開幕2連勝を取めている強敵であるが、何としても初白星を挙げたい。



1Q

桃山大のキックにより試合開始。自陣 21yds から阪大の攻撃がスタート。4 回生 QB#6 渡辺から 4 回生 WR#11 長谷川へ 40yds のロングパスが成功！好調な滑り出しを見せる。ランやパスを織り交ぜ 1stdown を獲得し、敵陣 12yds まで一気に攻め込む。続けてランを試みるもロスタックルを受け 3rd 12。次にパスを試みるもエンドゾーンでインターセプトされ、タッチバック。桃山大に攻撃権が移る。3 回生 LB#47 木村がパスカットなど阪大 D#は奮闘するものの自陣 11yds まで攻め入れられタッチダウンパスを決められてしまう。TFP のキックも入れられ 0-7。桃山大のキックにより試合再開。阪大は自陣 20yds から攻撃。なかなかゲインできないまま、QB#6 渡辺の投げたボールがインターセプトされたところで第 1Q が終了。



2Q

桃山大の攻撃。QB、RB のすばやいランでフレッシュを重ねられ、自陣 12yds。パスは通されるも 4 回生 DB#2 塚部や 1 回生 DB#7 佐々木の即タックルにより G 前 1yd で食い止める。ここで桃山 O#に反則があり、15yds 罰退したのち、パスをためらう QB にすかさず 2 回生 LB#54 東口が QB サック！続く桃山大の反則で自陣 42yds まで引き返すも FG を決められて 0-10。前半終了まで残り 5 分にさしかかる。まだまだ反撃の機会は十分にある。桃山大のキックで試合再開。集まりのはい DB に苦しめられ、なかなか思うように攻めることができない。阪大 O#はやむなくパントを選択し、攻撃権を渡してしまう。LB#54 東口による QB サックで大幅にロスを奪うもここで前半終了。



3Q

阪大のキックで試合再開。桃山大のビッグリターンにより自陣 34yds からの攻撃を許してしまう。阪大 D#はランをなかなか止められずそのまま TD される。TFP も決められ 0-17。流れに乗った桃山 O#のランをまたしても止めきれず再度 TD を許してしまい、0-24。QB#6 渡辺が自らボールをもってフレッシュを重ねる。しかし、三回パスが失敗し、4thdown。阪大 O#はギャブルを選択するもパスが通らず攻守交代。桃山 O#の勢いは止まることなく阪大 D#は大幅にランによるロングゲインを許し、G 前 5yds まで迫られる。RB がエンドゾーンまで突っ切り TD され、0-31。その後は点差を縮められないまま第 3Q が終了した。



4Q

阪大 O#はパスを試みるもインターセプトされ、早々に攻守を交代する。巧みにランとパスを使い分ける桃山 O#の勢いを止めきれず、またもや TD され、0-38。試合終了まで 8 分。このまま 0 点では終われない。阪大 O#は OL の必死のパスプロのもとで次々にパスを成功させる。QB#6 渡辺が投げたロングパスを 3 回生 WR#13 柴山が見事にキャッチ！一気に敵陣 12yds まで前進する。そのあとも短いパスを重ねてついに G 前 3yds。QB#6 渡辺がスクランブルを決し、勢いよくエンドゾーンまで突っ切り、TD。阪大はここで 2 ポイントコンバージョンを選択。4 回生 WR#81 鈴木が見事にパスをキャッチし、8-38。直後の阪大のオンサイドキックは桃山大に抑えられ、再び攻撃権は桃山大へ。阪大 D#はタイムアウトをとりながら作戦を練り直すもパスを許し TD され、8-45。阪大 O#は残されたわずかな時間で必死に食らいつくも得点にはいたらず、試合が終了。



実力差を見せつけられた試合であった。思い描いていた道とは違うが目の前に敵がいる限り、全力で戦い続けるだけだ。次節の甲南大学は昨年まで 1 部で戦っていた強豪校であるが、次節までの 2 週間、日々ベストをつくり、限界を超えた先に勝利が待っているはずだ。BE ONE.